

小児と成人のための超音波ガイド下区域麻酔図解マニュアル

監訳：中島 芳樹

訳者代表：上村 明



鈴木 玄一 日本小児麻酔学会名誉会員

画像とイラストが豊富で実際の手技を行う際に大変便利

この本は第3版で、このたび初めて日本語版が出版された。著者は区域麻酔を超音波ガイド下で施行することにより、成功率が向上し、より正確に必要な部分のみのブロックが可能になり、新生児から高齢者まで恩恵を受けたと述べている。その他、新生児などに対する超音波ガイド下の内頸静脈カテーテル留置法を解説し、さらに区域麻酔以外に超音波ガイド下での肺・気道・視神経管・胃噴門部エコーについて簡潔な概要にも触れている。区域麻酔以外に麻酔科医が覚えておいて大変役に立つことだろう。

超音波の基本的な原理の理解は当然として、p. 19に記載された超音波ガイド下神経ブロックのコツは、ぜひとも目を通していただきたい。

本書はB5判で、実際にブロックを行う場合に傍らに置けるので大変便利であり、超音波画像、写真、イラストが豊富で大変参考になる。また日本語訳が大変素晴らしく、著者の長年の苦労もあることと思うが、ブロックに際して読者は理解しやすいと思われる。

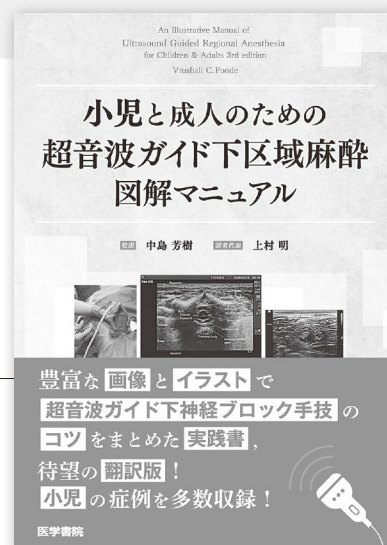
ブロック針の太さと局所麻酔薬の種類と量は施設により異なるので注意されたい。例えば仙骨麻酔について述べると、欧米では穿刺針で、皮膚や皮下の debris を硬膜外腔に誤入するのを予防するために、スタ

イレット入りの針を使用する、すなわち22 Gの静脈留置針を使用するそうだが、私は国立小児病院時代の恩師に教えられ、以来25 Gの鈍針を用いている。この太さでも乳児では脂肪が多いせいか、何回も試みていると針先が詰まることがある。しかし、この25 Gは長さ2.5 cmで非常に使用しやすい。

仙骨麻酔では薬液注入中に後硬膜の沈み込みがあるそうだが、評者は不注意のせいか気が付かず、今後はよく注意したい。

小児胸部傍脊椎ブロックのところでは、椎体、肋膜、内肋間筋、横突起などのイラストがあれば、ブロックを行うときに非常にわかりやすかったと思う。このブロックは開胸手術に非常に有効で、硬膜外ブロックと異なり開胸側のみの鎮痛であり、術後胸腔ドレーンが挿入中は体動に際して創部痛より強い疼痛を抑える。また、このブロックは腎臓手術や腎生検にも有効で患側のみのブロックであり、開胸手術とともにこのマニュアルを参考に皆さんにもっと施行してもらいたい。

術後の鎮痛には麻薬を含む鎮痛薬よりも区域麻酔が有効なのは誰もが認めるところである。絶対的な禁忌がある場合はともかく、まずはこの本を参考に区域麻酔を試みるべきである。



B5 頁200 2021年10月 定価：8,250円（本体7,500円＋税10%） 医学書院刊 [ISBN978-4-260-04744-9]